

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 **企画文化局**

基本計画	柱	アジアのなかで成長する
	大項目	アジアを中心とした国際戦略の推進
	取組みの方針	国際都市間ネットワークの拡充

担当局 / 総務担当課名	企画文化局	企画課
連絡先	582 - 2153	

21年度計画

-1-(1)-

施 策 名 **都市間交流・連携の推進**

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	姉妹・友好都市との交流事業や国際協力などにより培ったネットワークを活用した経済交流、海外に向けたシティプロモーションを進めるとともに、新たな都市提携の可能性を検討します。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	国際都市間ネットワークの拡充

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値	
	年度	平成20年度	計画	実績		年度	平成25年度
多くの市民の方々に、外国の方々と触れ合ってもらい、異文化理解を促進します。そして更なる交流の拡大に努めます。	米国、中国、韓国、ベトナム姉妹都市交流事業参加者延べ人数		計画	350 人	年度	平成25年度	
		現状値 320人	実績	400 人	目標値	430人	
			達成度	114.3 %			
		年度	計画		年度		
		現状値	実績		目標値		
			達成度	%			
コスト	A時点 -		事業費	27,403 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
	B時点 -		うち一般財源	27,403 千円	28,050 千円		
	C時点 22.7月 [21年度:執行額]						

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	B	平成21年はタコマ・ノーフォーク両都市との提携50周年にあたり、両市の方が来北し交流を深めるなど、各種行事が行われました。多くの市民が参加できるような催しもあり、国際交流が盛んであることが印象付けられました。今後も継続的に交流を進めていくことが必要です。
		米国や中国、韓国との経済交流は盛んに行われており、地元経済事務所を開設し数年が経ち徐々に各国の事情に対応できるようになっています。人材育成の面からも事業の成果を上げていくにはこれからかなりの年月が必要となりますが、継続性を持って取り組んでいく必要があります。

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価
 下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名 都市間交流・連携の推進

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
姉妹・友好都市交流事業			27,403 千円	28,050 千円	裁量経費			ウ
事業費のうち一般財源			27,403 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	27,403 千円	28,050 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	27,403 千円	

局施策の
21年度評価

B

【局施策評価】
A: 大変良い状況にある
B: 概ね良い状況にある
C: 概ね良い状況とまでは言えない
D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業

新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	アジア交流課
連絡先	582-2162	

基本計画	柱	アジアのなかで成長する
	大項目	アジアを中心とした国際戦略の推進
	取組みの方針	国際都市間ネットワークの拡充
	主要施策	都市間交流・連携の推進

関連計画	
事業期間	
経費区分	裁量経費

-1-(1)-

事業名	姉妹・友好都市交流事業
-----	-------------

【事業の概要】	何(誰)をどのようになりたいのか。	異なる国籍や文化を持った人々が快適に社会生活を営むことができるように、多様な価値観や文化を受け入れることができる社会の実現に向けて、国際交流・多文化理解を深める機会を市民に提供することは不可欠です。また、独自に他都市との経済交流を戦略的に進めることによって地域経済の活性化を図り、新しい都市活力を創出することも必要です。それらの基礎となるのが姉妹・友好都市交流であるため、交流を他課と連携して発展的に継続していきます。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	都市間交流・連携の推進	成果	米国、中国、韓国、ベトナム姉妹都市交流事業参加者延べ人数

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	米国、中国、韓国、ベトナム姉妹都市交流事業参加者延べ人数 350人	370人	390人	410人	430人				
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		米国、中国、韓国、ベトナム姉妹都市交流事業参加者延べ人数						計画	350 人	年度	平成25年度
		多くの市民の方々に、外国の方々と触れ合ってもらい、異文化理解を促進する。そして更なる交流の拡大に努める。 (米国: 約200人、中国: 約130人、韓国: 約50人、ベトナム: 約20人)						実績	400 人	内容	430人
								達成度	114.3 %		
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]						事業費	27,403 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
								うち一般財源	27,403 千円	28,050 千円	
	単年度計画										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	周年事業を多く実施した年であったが、滞りなく遂行することができました。22年度事業も効率的な事業実施を通じて、今後の姉妹友好都市交流事業に大きく貢献することができると考えられます。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	市民の国際理解を促進すること、視野を広げることといった現代社会に求められる内容を体感する機会を定期的に与えることができました。また、長年の友好交流の結果、大連市にて開設した『北九州市アンテナショップ』には大連市側から財政支援を得るなど経済面での交流も拡大しています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	来北者へは北九州国際交流協会を通じてホームステイを斡旋し、さらには本市に居住する留学生や民間ボランティアと連携し通訳をお願いするなど、より効率的に事業を実施しました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	グローバル化が進む現代において、文化、経済的にも市民レベルで国際感覚を身につけることが重要です。人的交流をする機会を継続的にもつことで、市全体の活性化につながる意味で存在意義は大きいと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	姉妹友好都市との交流の機会を通じて、市民全体に多様な価値観や文化を体験し、理解してもらうという観点から市を主体として事業を行うことが適当と考えます。併せて経済的な発展を続けている中国(大連市)、ベトナム(ハイフォン市)は、経済交流のステップとして重要です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。		ウ	市民の間での様々な交流は、継続的に行うことが重要です。今後、姉妹友好都市を中心として継続的な交流を続けることで、北九州市民の多文化への理解と知識を向上させ、国際政策の一つとして掲げる『多文化共生のまちづくり』を推進する上での土台づくりになると期待されます。